

日本生育外国人児童の小学1年時作文の計量的分析 —日本人児童との比較を通して—

工藤聖子（早稲田文化館日本語科）・三好大（東京学芸大学大学院）・齋藤ひろみ（東京学芸大学）

2018-2021年度科学研究費基盤研究(C)研究課題番号：18K00710代表：齋藤ひろみ
題目：子どもの日本語教育の実践・研究のための「プラットフォーム」構築に関する研究

1 目的 日本生育外国人児童の作文力の発達の特徴を日本人児童や他校の児童との比較を通して捉える。

2 先行研究

齋藤他(2014)・・・2年生～6年生の作文を対象にした日本生育外国人の作文力に関する調査において、日本生育であっても、書く力の発達は日本人児童と比較し産出量・文構造の複雑化において遅れが見られた。

3 データ(作文資料)と分析方法

対象：1年生の出来事作文

A校：外国人児童(F)51名・日本人児童(J)42名、計93名
(Fの来歴：日本生育(日F)35人／母国生まれ(母F)16人)

(Fの文化背景：ベ24、中15、カ5、ラ3、フィ2、ブ2)

B校：広域から児童が通学している(入学選抜あり)

分析：①産出量…文字数と文数

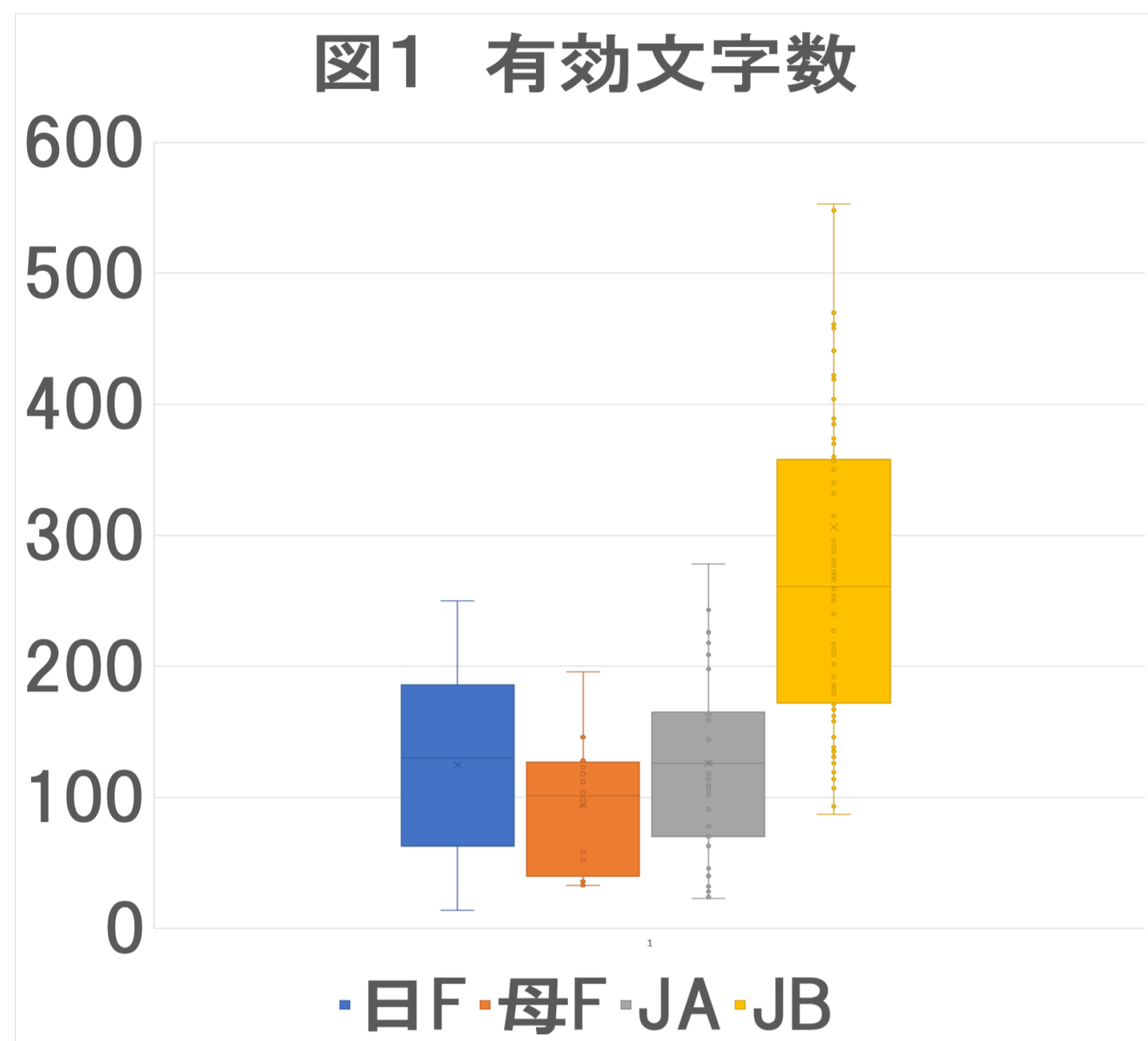
②文構造の複雑さ…平均文節数、複文割合、複文述語数

③従属節の特徴

表1分析対象作文数

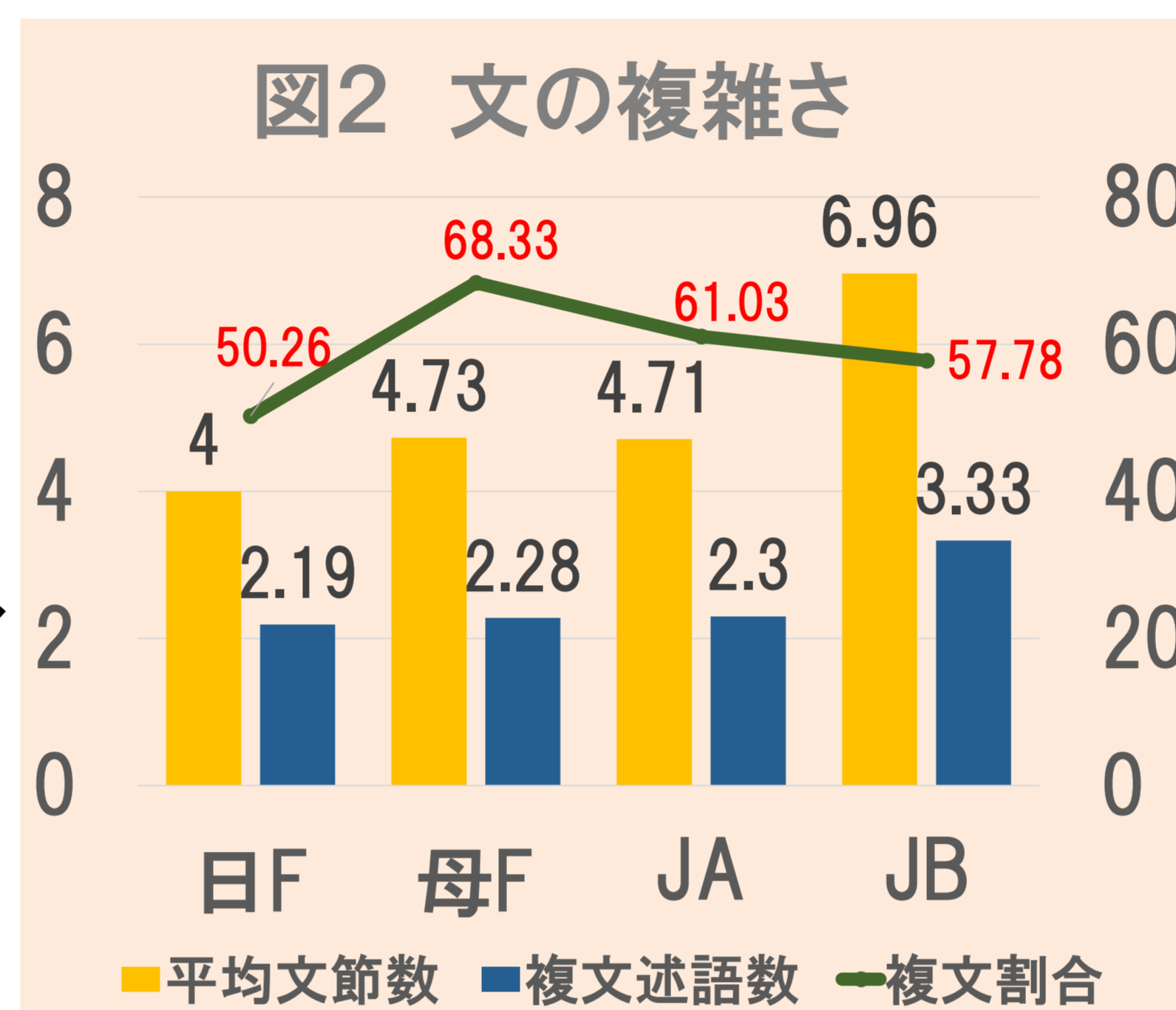
	F	J	計
A校	51	42	93
B校	0	89	89

4 結果 結果1 産出量



有効文字数はJBが他3群に比べ明らかに多い。日FとJAは同程度にあり、同じFでも日Fと母Fに差が見られた。また、Jで見ると、JBとJAにも大きな差が見られ、学校間の違いが目立つ。

結果2 文の複雑さ



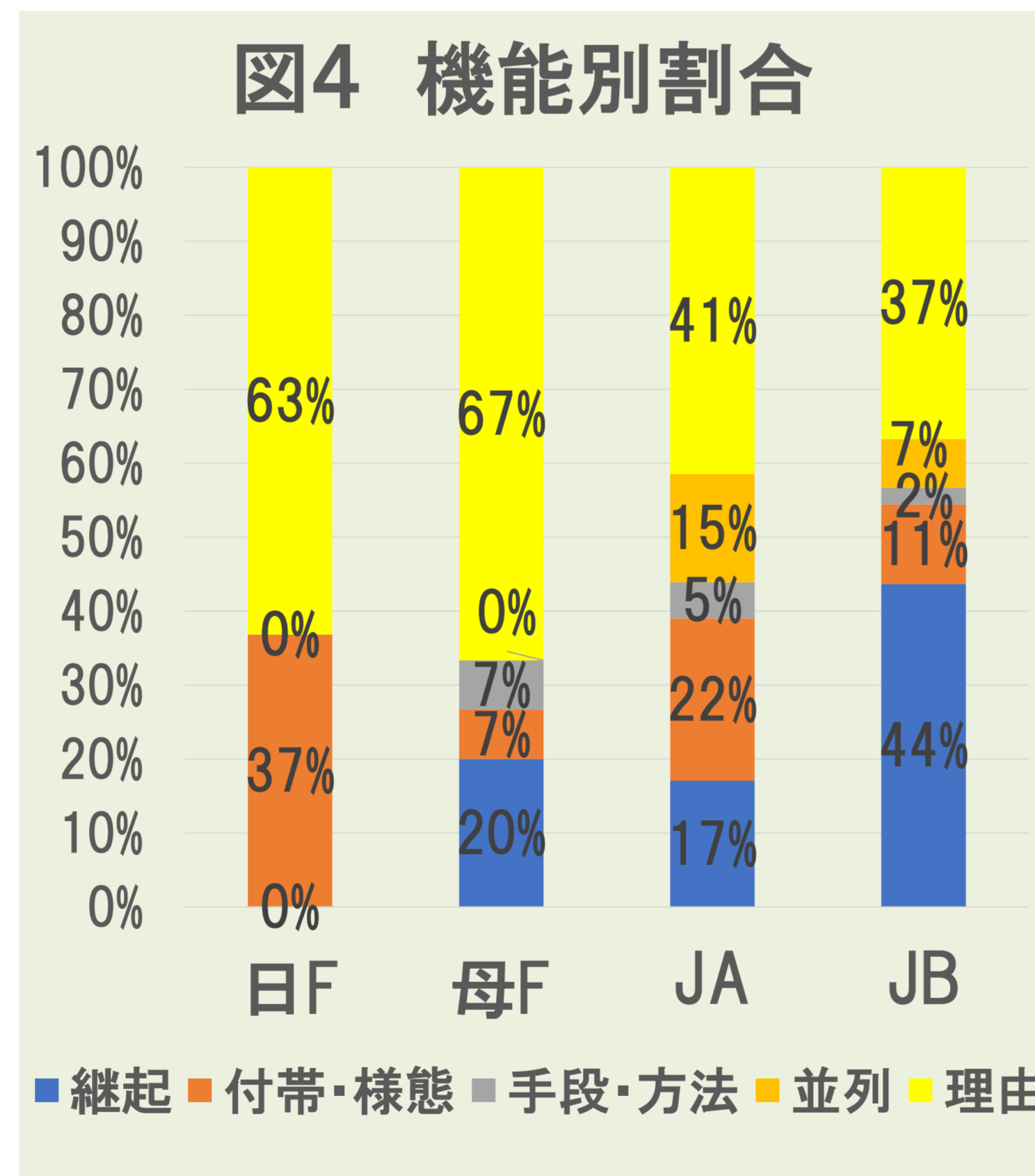
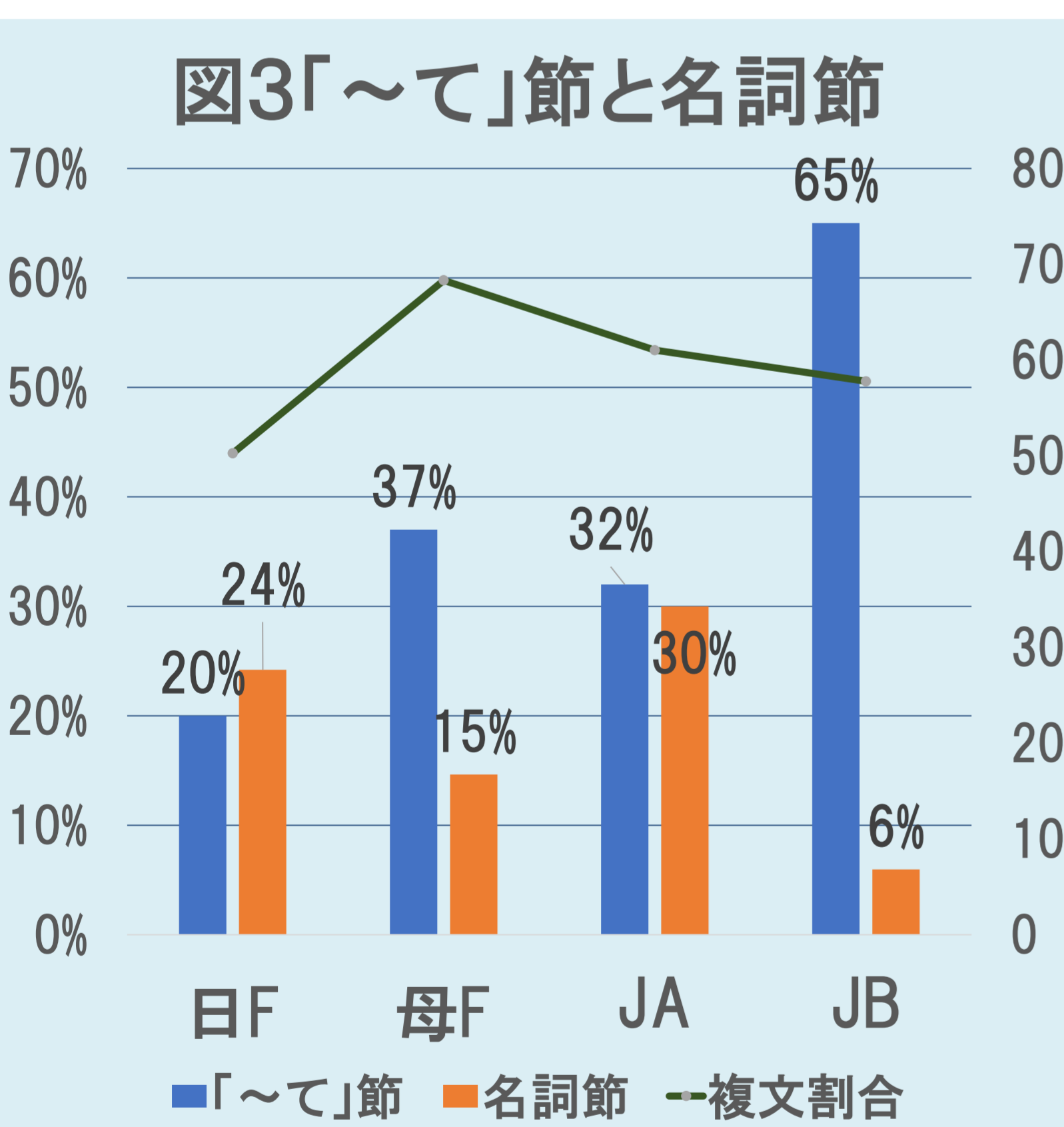
平均文節数・複文述語数はJBがほか3群より高く、学校間の差が見られる。A校の3群がほぼ同じ数値であることから、環境の影響が大きく現われていると考えられる。しかし、複文割合では、異なる要素を見せており、母Fが最も高く、日Fが最も低い。

上記の特徴を、従属節に焦点を当てて探る → 結果3

結果3 従属節の特徴

「～て」節はJBが他3群に比べ出現が明らかに多く、名詞節はJAに多く見られる。日F・JAは「～て」節と名詞節の出現率が近い数値であるが、母F・JBは、「～て」節が「名詞節」の数倍現われている。

機能別では、日F・母Fで「理由」が60%以上を占めている。日Fは「理由」以外は「付帯・様態」のみであるのに対し、母Fは、「継起」「手段・方法」も見られる。JA・JBには全機能が見られるが、JAは理由、JBは継起の割合が最も高い。



作文例① 日F(中国)

ぼくは、さくらやまではんのとみだちとおべんとうをたべたのがおもいでにのこりました。とりでのもりまえひろばでみんなとおにごっこをしたのがたのしかったです。とりでのもりですべりだいをやったのがたのしかったです。あるくのがつかれたけどそのけしきがいっぱいみれて(理由)たのしかったです。かいだんがながかったけどがんばって(付帯)のぼりました。

名詞節として、「～のが～です」という定型化した表現が繰り返されている。「～て」節の「理由」「付帯」が見られるが、他の作文でも「～て～かったです」「がんばって～ました」という型として現われていた。

作文例② JB

きのう、ニーだんと、ぜんこうえんそくで、はんのうえきまでいきました。あるいて(手段)、山のぼりをするばしょにいて(継起)、のぼりは、Aコースでくだりは、Cコースでした。のぼるときは、ゆっくりのぼりました。おべんとうは、まん中に、大きな石があつて(様態)ベンチが、二こぐらいあるじんじゃで、たべました。おかしこうかんが、ハイチュウをあげました。ハイチュウは、グレープあじのハイチュウが、二こしかありませんでした。くだりは、あるくのがおそくて(理由)、だんちょうが、けっこうまえに、いってしまいました。おいかけたらおいつきました。たのしい一日でした。

「～て」節が多く使われている。また、「手段」「継起」「様態」「理由」の機能を用いることで、遠足の出来事を詳述している。

5 考察

産出量・文の複雑さでは、学校間の差が目立つことから、学校環境の違いが発達に影響している可能性がある。また、A校の3群間の違いとしては、日本生育児童には日本人、母国生まれ児童に比べ、構造が単純で従属節に多様性が見られない。一方、日本人児童と外国人児童の間では、従属節の機能の出現状況に発達の特徴が見られ、日本人児童の方が、節を繋ぐ機能の多様化は進んでいるようである。齋藤(2014)の結果を踏まえると、低学年での差は高学年になっても埋まらないことが推察される。そのため就学前教育との接続や低学年からの継続的な支援とその方法の検討が必要であると考えられる。

【参考文献】

- ・OECD編著 齋藤里美監訳(2007)『移民の子どもと学力 社会的背景が学習にどんな影響を与えるのか』明石書店
- ・齋藤ひろみ・鳥田陽子・菅原雅枝・森篤嗣・阿部志野歩・北澤尚(2014)「日本生育外国人児童の作文力に関する調査」、『国際教育評論』No.11, pp53-64
- ・益岡隆志(1997)『新日本語文法選書2 複文』くろしお出版